

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202148		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	グループホームみずあおい(1階 2階合同)		
所在地	静岡市葵区北3丁目26-29		
自己評価作成日	平成26年11月14日	評価結果市町村受理日	平成27年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaikokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosoCd=2274202148-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaikokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosoCd=2274202148-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成26年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

湖山医療福祉グループの理念である「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」と、グループホームみずあおいの理念である「居心地のいいぬくもりあふれる光の中であなたと出会い楽しい時間をいつまでも」を実践すべく、お客様中心の介護が行えるよう日々努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

麻機遊水地に生息する『みずあおい』から命名されデイサービスと居宅介護支援事業所を併設しています。三分の一の職員が新卒で占める中、法人研修を始め内外の研修に力を入れ、その頻度は月3回にまで及びます。本年は「利用者中心、に焦点を当て「路線バスに乗って買い物に行きたい」「安倍川花火を見たい」「テレビで見た山奥のパン屋さんに行ってみよう」といった願いの一つひとつ叶えています。余命僅かな利用者にも医師の指示を仰ぎつつ発表会会場まで付き添い留学前の孫の勇姿を觀てもらえたエピソードもあります。家族からは「本当によかった」と感謝の言葉が届き、チームケアを奮い立たせています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、事業所理念を掲示し、全体会議、朝礼時唱和を行い、事業所内で共有し、周知と実践に努めている。	理念を個人目標に落とし込み、会議や朝礼の唱和で再確認しています。食事、くつろぎ、癒しを担保するリビングではどのコーナーにも傍らに寄添う職員の姿があり「ぬくもりあふれる居心地のよい、様子が覗えます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入し、地域行事にはお客様と一緒に参加したり、地域に向けてのイベントの発信やボランティア活動に来て頂いたり、相互交流が行われている。	町内会加入を機に男性職員は神輿担ぎ手を拝命し、神社夏祭りには毎年出店を任されています。事業所周年祭は回覧板やポスティング、ポスター掲示で発信し食品販売に賑わいを見せており、双方向の交流があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	問い合わせを頂いた場合に事業所にて相談を行っている。認知症への理解を深めて頂けるような積極的活動は出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、地域運営推進会議を開催して包括支援センターの職員さんや地域住民、ご家族様への活動報告や話し合いを行い、地域の中のみずあおいを確立していけるよう努めている。	定期開催し利用者も参加する中、町内会長による地区敬老会への招待や行事のお知らせ、地域包括支援センター職員の地域状況説明、家族からは感謝の言葉が聞かれていることを議事録から視認しました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	届出等がある場合のみならず、行政に対しての質問事項等がある場合も電話で済ませず、極力担当部署へ出向き、連携を深める取り組みを行っている。	事務手続きやわからないことは必ず直接出向いて相談し、行政からは都度丁寧に回答をもらえています。市主催による研修会には参加できるよう鋭意調整しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の研修にも積極的に参加し、身体拘束をしないケアについて周知、実践している。今後もさらに理解を深めていけるよう努めていく。	法人研修を内部研修に落とし込み「ちょっと待って」「座ってて」と言うことが拘束であると知り理解はできています。何が理由で立ったのか本人の意思を必ず聴こうと話し合い、グッドワードへに言い替えたりつい出てしまう時にも職員相互に注意する関係ができています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の研修にも積極的に参加し、虐待防止について周知、実践している。今後もさらに理解を深めていけるよう努めていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を活用しているお客様もおり、数名の職員は理解をしているが全ての職員にまでは周知されていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとり、ご理解頂ける説明になるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会、来所時等に近況報告を行う中で、ご意見や苦情等を聴取し、運営に反映させるようにしている。	年に一度運営推進会議と家族会を併催し家族同士が語り合う時間を設けています。「若い職員には声をかけにくい」といった意見から「自分達から話しかけよう、まずは挨拶から」と省みて改善につなげています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議、全体会議、部署会議、各委員会会議等を通じ、職員の意見や提案を発信できる機会を設け、反映させている。	毎月の部署会議は遅番、夜勤職員以外全員が顔を合わせ、排泄の自立支援をはじめとする介護技術についても若い職員から率直な進言があります。自己評価を振り返り、半期に一度個人面談をおこなっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人、事業所ともに各種制度や業務改善を通じ、職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修計画が確立されており、計画的に研修に参加できている。一部職員については外部研修へも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の研修や、勉強会、施設間実習等を通じ、他事業所との交流、情報交換を図り、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込む前に極力見学して頂き、ご要望や昔の話などをできるだけお聞きし、安心して過ごしていただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込む前になるべく見学して頂き、ご本人様のご要望やご本人様に関する情報を十分確認した上で安心してお任せ頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込む前に極力見学して頂き、ご本人様の経過や状況などの情報を十分確認した上で提案できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を大切にし、残存能力に合わせた活動を心掛け、日常の会話でコミュニケーションを取り、家族的な関係性を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様が来所された際は明るく挨拶をし、近況報告を通じてコミュニケーションを図る事で良好な関係性を築くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来て頂きやすい空間作りを心掛け、外出時などには馴染みの場所へいく事もある。ご家族の他、ご友人がいらっしゃる事もある。	友人が会いに来てくれたり、携帯でのおしゃべりを存分に味わう人もいます。両親の菩提寺へのお参りに付き添ったり、毎日買い物をしていた馴染みのスーパーへ顔を出すことで無事を喜ぶ光景もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の相性を考慮し、座席を配置し、職員も間に入り、孤立しないような支援を行い良好な人間関係を築いていけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係性は大事にしているが、サービスを終了したご家族様に対し、相談、支援を行うまでには至っていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様担当をつけ、日常の関わりの中で意向や思いを把握できるようにしている。また、ご家族様の意見や情報から本人様の希望に結びつけるよう努めている。	自身の言葉で伝えられる人は話の中から聴き取り、困難な場合は家族から得て推し量っています。自宅を訪問して暮らしを知り、ライフヒストリーを職員で共有し大切な人と感じてもらえるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク時の情報などでお客様の情報把握や部署会議等で情報の共有ができるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、バイタルチェック表を用いてお客様の日々の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時にカンファレンスを行い、お客様の現状を話し合い、現状に即した介護計画となるよう努めている。	3ヶ月から半年毎にモニタリングを行い、状態変化には随時カンファレンスを開き見直しをしています。評価からねらいを明確化し、介護記録にサービス内容を盛り込むことでプランの浸透を図っていることをシートから確認しました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には日常の様子や気付いた点などできるだけ細かく記入し、誰が見ても状況がわかるような記録作成を心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスにおいて体操や、レク、行事に参加して頂く等、柔軟なサービス提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域中学校の職場体験授業の受け入れを行っている。また、地域のスーパーなどへ買い物に行くなどの支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご家族様付き添いで受診して頂いている。また往診医の訪問があり、体調変化があった場合はナースやご家族様と相談し必要な医療を受けられるよう支援している。	家族受診ができる限りかかりつけ医を継続し、受診科により連絡ノートを作成して医師からもコメントを書き入れてもらっています。希望に応じターミナル期でも月2回の往診が可能な専門医に移行しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携記録簿やナースへ相談する事で適切な受診、看護が受けられるような支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報や相談はご家族様との連絡になる為、直接的な関係づくりは出来ていないが、職員がお見舞いに行き、状況把握を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、看取りに関する指針を持ち、ご家族様と話し合い、看取り介護を行った。	「ここで最期まで」という希望も多く、本年は理解ある往診専門医と家族の連携で1名を看取っています。法人内の経験職員を招き勉強会を開いて心構えをもち、余命僅かでありながら医師の許可を得て外出できたことは達成感とともにチームケアの強みとなりました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備え、全ての職員が普通救命講習Ⅰを受講しているが実践力を身に付けているとまでは言えず、ナースが対応する事が多い。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを整備し、定期的に訓練を行っている。地域の防災訓練にも参加し、周知に努めているものの、十分な協力体制は築けていない。	車椅子利用者を外階段から避難する訓練をおこなっています。地域のひととの協力体制には課題がありますが、地域防災訓練には4名の利用者と共に参加し簡易トイレ組立や消火訓練、炊き出しを体験しています。	地域との協力体制の構築を期待いたします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	こやまケア行動方針に基づき、1人1人に寄り添うケア、プライバシーを損なわない言葉かけ、対応を心掛けている。接遇について掲示している。	法人全体で接遇に力を入れ昨年度は3回の研修を実施しています。身だしなみチェック項目を定め、出勤後一読できる場所に掲示して意識を高めています。相互に注意し合う関係があり丁寧な挨拶と笑顔がみられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の希望が最優先されるような働きかけに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならぬよう心がけ、日々の生活がその方の希望、ペースになるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の意思を尊重した身だしなみ、おしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養管理として食材業者から献立と食材を調達している。準備、後片付けはご本人様の力を活かして行い、好みについては出来る限り添えるよう努めている。また企画行事に反映させる場合もある。	職員が手作りしていますが、好き嫌いやアレルギーに配慮する日を決めて買い物にも出かけています。外食は個々に機会を設け、手作りおやつの日には全利用者がワンフロアに集まって愉しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お客様の状態に合わせ、食形態の対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床～毎食後に実施し、状況に合わせた口腔ケアの提供を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	座ってする当たり前の排泄を実践すべく、声かけや表情、サインをみてトイレ誘導を行っている。	腰を上げる、表情や「痛い」という言葉が排泄の意思表示という人もあり、個々のサインを共有することで失敗が減っています。リハビリパンツから日中だけ布パンツへの移行した人もあり経済的負担を軽減しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部マッサージを行う等、便秘予防を心がけている。便秘についての勉強会を行った。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お客様の希望やタイミングに合わせ、日勤帯ではあるが、毎日入浴可能な環境を作っている。	「毎日入りたい」「一番湯がいい」の要望に沿い日中に限られますが時間を決めず、週2～3回を目安としています。職員二人介助でゆったり湯船に浸かれるとリラックスして一層話が弾んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様の体調を考慮した室温調整等、なるべく安心して気持ちよく眠って頂けるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬説明書ファイルや服薬管理手順書、服薬管理表等を作成し、重複チェックでの確認を実施し、徹底した服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様の生活歴と現在の状況を考慮し、生活の中で役割を持って頂いている。また併設デイサービスでの体操、レク、慰問行事等に参加して頂いたり、喫煙管理を行うなどして、楽しみ事や気分転換の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や近隣への散歩、ドライブ、企画行事等、体調を考慮しながら外出支援を行っている。	お天気に合わせ玄関先で10分でも外気に触れるようにしています。散歩や外出は行く人が偏らないようケアプランにも位置づけています。恒例の秋の遠足は全員が行ける近場に定め、本年は個々の「～に行きたい」を叶えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時は職員が同行している。一部のお客様については財布をお渡しし、見守りのもと支払って頂いている。金銭管理は全て職員が行ってる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙などはご本人様、ご家族様のご希望に沿って対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた掲示物の配置を行う。また立地として日当たりが良い。居心地の良い空間作りに努めている。	おやつ作りに精を出すテーブルや井戸端会議ができる和室、テレビ好きな人のためのソファー、一人で日向ぼっこできるスペースが確保され、ゆとりある暮らしの空間となっています。自慢の力作を各所に掲示する人もあり居心地のよさが伝わります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室やソファー、窓際など、思い思いに過ごして頂けるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や思い出の品を持ち込んで頂き、居心地良く過ごせる工夫をしている。	ベッド、洗面所、エアコン、カーテンが予め配され、筆筒やぬいぐるみの持ち込みがあります。安静が必要になり居室での時間が増えた時には目に見える位置に飾り台を作り、天井にも明るい装飾を施す心配りがあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレの表札や、手すりの設置など、安全な環境作りと残存機能の維持を考慮し、出来る事はなるべくご自身にお願いするような声かけを行っている。		